

2020年2月8日(土)

老球の細道524号

## 「全会津バスケットボール選手権大会(百井杯)」雑感

会津バスケットボール協会 室井 富仁

東京五輪が刻一刻と近づいて来ている。長い五輪の歴史でバスケットボール競技において福島県から五輪出場した選手はたった4人しかいない。いわき地区から2名(大平礼三、志賀政司)、福島地区から1名(萩原美樹子)、そしてわが会津地区からは1名(江川嘉孝・坂下町)である。

江川嘉孝氏は五輪に出場するという夢を実現するために、会津高校から当時日本一だった東京の中央大学付属杉並高校へ編入した。その後明治大学へ進み前回の18回東京五輪(1964年)に出場した。その後20回ミュンヘン五輪ではコーチとして出場し、選手、コーチの両方で五輪出場を果たしたのである。この経験は現在日本では江川氏只一人である。このような偉大な先輩が過去に会津地区から輩出していたのである。

私たちが中学、高校の頃は顧問の先生や先輩から江川氏の話をよく聞かされ、当時のバスケット雑誌『バスケットボールイラストレイテッド』などに江川氏が日本リーグで得点王やMVPになったりした記事などを読んで、江川さんに続けと頑張っていたものである。

先日恒例の全会津選手権大会が開催された。高校生と一般チームが混在して会津NO1を決する大会である。この大会では、特に男子においては高校生チームが優勝することは至難であるが、優勝に近づけば高校の県大会においても相当な成績を残せる試金石となっている。今年度は残念ながら高校男子はベスト4進出チームは0(県新人大会3位若松商業は不出場)、女子は会津高校が期待されたが、主力のケガで決勝敗退の結果となった。

特に男子決勝戦は、お互いにシュートがよく決まり、NBAオールスター戦のようなハイスコアのゲーム展開になった。このようなチームが全国でもトップレベルにある福島県大会一般の部に参加したら何回戦まで行けるだろうか?優勝は?など考えながら観戦した。

かつて、会津地区では「会津クラブ」という一般チームが県大会、東北大会を制し、国体にも出場した時代があった。高校生以上に走る練習を課し、目標は常に全国を視野に置いていた。そして、当時の中学、高校生は会津クラブのゲームを観戦し、共に練習をして、卒業後は会津クラブでプレイすることを夢見た子供たちがたくさんいた。そのような人たちが今会津地区のミニバス指導で力を発揮し、地区のレベルアップに貢献している。

残念ながら現在会津地区から日本協会登録をしている一般チームは非常に少なく、男子は4チーム、女子は0で、福島県5地区では最低である。願わくば、会津地区の多くの一般チームが日本協会登録を行い、広い世界で高いレベルを目指してバスケットボールを楽しむようなチームがたくさん出てほしい。会津だけで終わるのはもったいない。ミニや中学でもクラブチームを作り日本協会に登録して全国を目指すチームが増えている。一般チームができないはずはない。志の高いチームが増加して会津の子どもたちに夢を与えてほしい。